

令和6年度 名古屋市教育研究員研究計画書 3番

合理的に判断する力が育つ社会科学学習

名古屋市立東桜小学校教諭 春 野 裕 介

I 研究のねらい

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、社会の様子が急速に変化し、未来の予測が困難となっている。学習指導要領の社会科の目標では、「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う」ことが明記されており、目まぐるしく変化し、予測困難で価値観が多様化する社会を生き抜くために、社会に見られる課題の解決策を判断する力の育成が求められている。また、中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指してでは、課題に対して、「多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すこと」が求められている。さらに、立命館大学教授の角田将士氏は、「社会科で育成すべき学力は、社会を深く理解した上で、より良いあり方を自律的に考えていくことができる力、すなわち、『合理的判断力』の育成に向けたものであると言える。」と述べている。これらのことから、社会科の学習では、様々な立場に立って社会的事象について理解したり、他者と協働しながらよりよい社会の在り方について考えたりする力の育成が求められていると考える。

しかし、これまでの実践を振り返ると、社会に見られる課題について具体性や現実性に欠けた解決策を考える子どもの姿が見られた。これは、現状の取組のよさや課題を十分に捉えきれておらず、現状を踏まえて社会に見られる課題の解決策を考えることができなかつたためだと考える。そこで私は、様々な立場から現状の社会的事象の意味を捉え、社会に見られる課題のよりよい解決策を判断する力の育成を目指して研究を進める必要があると考えた。

私が考える「合理的に判断する力」とは、よりよい社会の在り方について、現状の取組のよさや課題と問題解決に関わる条件を踏まえて、望ましい解決策を判断する力である。このことは、社会科の目標である「平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を養い、今日の教育課題に迫るという点で意義深いと考える。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立東桜小学校 第4学年 33人

2 基本的な考え

育てたい子ども像に迫るためには、まず、様々な立場の取組やそれに対する思いや願いについて調べ、それらと社会に与える影響とのつながりを捉える必要がある。そして、学習したことを基に、社会に見られる課題の解決方法について話し合い、考えをまとめる必要があると考える。これらにより、様々な立場から現状の社会的事象の意味を捉えた上で、現状の取組のよさや課題と問題解決に関わる条件を踏まえて、社会に見られる課題の望ましい解決策を判断することにつなげたい。そこで、「つかむ」「捉える」「考える」の3段階を基本的な学習過程として学習を進めることにした【資料1】。

段階	主な学習活動
つかむ	<ul style="list-style-type: none">○ 現在行われている取組を調べるために、学習問題①を設定する。○ 学習問題の予想を基に追究する立場を設定し、学習計画を立てる。
捉える	<ul style="list-style-type: none">○ 様々な立場の取組やそれに対する思いや願いを調べる。○ 取組やそれに対する思いや願いと社会に与える影響とのつながりを「情報整理カード」に整理する。○ 「情報整理カード」を使って話し合い、現状の取組のよさと課題を捉え、学習問題①についてまとめる。
考える	<ul style="list-style-type: none">○ 社会に見られる課題に対する解決策を考えるために、学習問題②を設定する。○ 社会に見られる課題に対する解決策とその理由を考え、話し合い、「マイプラカード」を使って学習問題②についてまとめる。

【資料1】基本的な学習の流れ

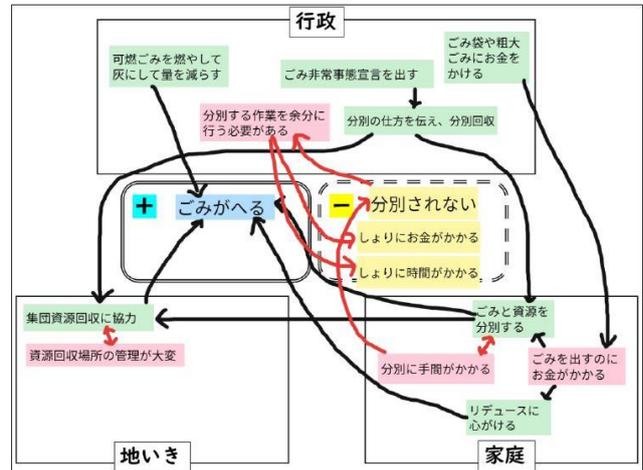
(1) 「つかむ」段階（学習問題を設定し、学習の見通しをもつ）

まず、現在行われている取組がもしも行われなかった場合の世の中を示すことで、現在行われている取組と自分たちの生活との関わりについて意識させる。その上で、追究していくための学習問題①を設定する。その後、学習問題①について予想したことを基に、追究していく立場を設定する。その際の立場は、行政、地域、家庭の三者とする。そして、学習問題①を解決するための学習計画を個々に立て、学習の見通しをもつことができるようにする。

(2) 「捉える」段階（取組について調べ、現状の社会的事象の意味を捉える）

まず、個々に立てた学習計画に沿って、様々な立場が行っている取組について調べる。調べ方は、個人でも協働でも可能としたり、教科書や学習帳、図書資料、動画資料など取り組みやすい資料を選んだりして進める。そして、調べた取組とそれに対する思いや願い、それらと社会に与える影響（プラス面とマイナス面）とのつながりを「情報整理カード」に整理する【資料2】。

その後、作成したカードを基に、学習問題①について話し合い、カードを加除修正しながら、それぞれの立場に対する影響を整理していくことで、現状の取組のよさや課題と果たす役割を考えていく。それを踏まえて、個人で学習問題①についてまとめる。



- 【作成手順】
- ① 取組を緑色のカードに記入する。
 - ② 取組に対する思いや願いをピンク色のカードに記入する。
 - ③ 社会に与えるよい面を水色、悪い面を黄色色のカードに記入する。
 - ④ ①・②・③のつながりを黒色(+) 赤色(-)の矢印でつなげる。

【資料2】情報整理カード

これらにより、現状の社会的事象の意味を捉えることができるようになる考えた。

(3) 「考える」段階（社会に見られる課題に対する望ましい解決策を判断する）

まず、社会に見られる課題の解決策を考えるための学習問題②を設定する。次に、社会に見られる課題を解決するために、「誰が（立場）」「何を（方法）」という解決策を考え、マイナス面をプラス面に変えるためのマイプランとして、「マイプラカード」に記入する。その際に、現状の取組のよさから考えられる解決策の効果、解決策にかかる手間や費用、解決策実施後の手間や費用を分析し、解決策の実行可能性や有効性を理由として示すようにする【資料3】。

その後、作成したカードを基に、解決策について話し合う。話し合いは、立場が同じ解決策を考えた子同士のグループ、立場が違う解決策を考えた子同士のグループという2段階で行う。そして、「マイプラカード」に赤色で追記したり修正したりしながら、より望ましい解決策となるように判断していく。

これらにより、よりよい社会に向けて、現状の取組のよさや課題と費用や手間といった問題解決に関わる条件を踏まえて、望ましい解決策を判断することができるようになる考えた。

【だれが】 行政	【作成者】 東桜太郎
【何をする】 ごみを減らす必要性を市民に伝えるポスターやテレビ番組を作る。	
【理由】 【現状の取組から考えられる解決策の効果】 「ごみ非常事態宣言」でごみを減らす必要を市民に伝えたら、次の年からごみが減ったから、効果がある。	
【解決策にかかる手間】 行政(かかる) 地いき(かかる) 家庭(かかる)	【解決策にかかるお金】 行政(かかる) 地いき(かかる) 家庭(かかる)
【実施後の手間・お金】 行政(かかる) 地いき(かかる) 家庭(かかる)	
<p><以上をふまえた解決策のよさ></p> <p>市民に呼びかけることで、ごみを減らすことに成功している。また、この取組は、行政に手間やお金がかかるが、地いきや家庭には大きな負担がからず、行いやすい取組だと思う。</p> <p>よって、ごみを減らすことにつながる。</p>	

① 社会に見られる課題を解決するために、誰が何をするとよいかを記入する。

② 解決策の実行可能性や有効性について、次のA～Dを根拠として示す。
A：自分が考えた解決策と似ている、現在行われている取組によって見られたよさ
B：解決策を行うのにかかる手間
C：解決策を行うのにかかる費用
D：解決策実施後に生じる手間や費用

③ ①・②を基に、考えた解決策のよさについてまとめて記入する。

【資料3】マイプラカード

3 6月実践「ごみのしよりと利用」と9・10月実践「風水害からくらしを守る」における学習展開

単元	「ごみのしよりと利用」(10時間完了)	「風水害からくらしを守る」(10時間完了)
目標	<p>ごみを処理する取組が、衛生的な処理や資源の有効利用のために進められており、地域の人々の衛生的な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができるようにする。また、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して調べ、それらの取組が果たす役割や生活環境の維持と向上のためのよりよい方法を考え、適切に表現することができるようにする。</p>	<p>地域の関係機関や人々が、伊勢湾台風や東海豪雨に対し、様々な協力をして対処してきたことを理解することができるようにする。また、風水害の被害の様子や、県庁や市役所を中心とした警察署や自衛隊、消防団などの関係機関の協力・連携などに着目して調べ、それらの取組が果たす役割や風水害への対策のためのよりよい方法を考え、適切に表現することができるようにする。</p>
段階	主な学習活動	
つかむ	<p>① 資料や学校の業務士の取組についての話を基に、ごみ減量と自分たちの生活との関わりを意識させ、学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習問題①】 ごみの処理に関わる取組は、誰にどのような影響を与えているのだろうか。</p> </div> <p>② 学習問題について予想したことを基に、追究する立場を設定し、学習計画を立てる。</p>	<p>① 資料や過去に風水害を経験した人の話を基に、風水害に対する対策と自分たちの生活との関わりを意識させ、学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習問題①】 風水害への対策に関わる取組は、誰にどのような影響を与えているのだろうか。</p> </div> <p>② 学習問題について予想したことを基に、追究する立場を設定し、学習計画を立てる。</p>
捉える	<p>③～⑥ 取組やそれに対する思いや願いを調べ、それらのつながりについて、個人で「情報整理カード」に整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><立場>行政(環境局・市)、地域、家庭</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><調べる方法> (1) 一人で調べる・友達と調べる (2) 学習帳で調べる・配付資料で調べる 本で調べる・インタビューをする</p> </div> <p>⑦⑧ 「情報整理カード」を基に、グループで話し合い、加除修正した上で、学習問題についてまとめる。 【検証場面1】</p>	<p>③～⑥ 取組やそれに対する思いや願いを調べ、それらのつながりについて、個人で「情報整理カード」に整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><立場>行政(市・消防など)、地域、家庭</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><調べる方法> (1) 一人で調べる・友達と調べる (2) 学習帳で調べる・配付資料で調べる 本で調べる・インタビューをする</p> </div> <p>⑦⑧ 「情報整理カード」を基に、グループで話し合い、加除修正した上で、学習問題についてまとめる。 【検証場面1】</p>
考える	<p>⑨ 新たな学習問題を設定し、社会に見られる課題に対する解決策とその理由について自分の考えを「マイプラカード」にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習問題②】 ごみをさらに減らすために、誰が何をするとよいのだろうか。</p> </div> <p>⑩ 「マイプラカード」を基に、グループで話し合った上で、最終的な自分の考えを「マイプラカード」にまとめる。 【検証場面2】</p>	<p>⑨ 新たな学習問題を設定し、社会に見られる課題に対する解決策とその理由について自分の考えを「マイプラカード」にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習問題②】 風水害による被害をさらに減らすために、誰が何をするとよいのだろうか。</p> </div> <p>⑩ 「マイプラカード」を基に、グループで話し合った上で、最終的な自分の考えを「マイプラカード」にまとめる。 【検証場面2】</p>

4 子どもの実態調査

単元「水はどこから」の「捉える」段階において、現状の社会的事象の意味を捉えることができているか、学習プリントへの記述内容と質問紙法から調査する。また、「考える」段階において、よりよい社会に向けて、現状の取組のよさや課題と問題解決に関わる条件を踏まえて、望ましい解決策を判断することができるか、学習プリントへの記述内容と質問紙法から調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「捉える」段階において、取組やそれに対する思いや願いと社会に与える影響とのつながりを複数の立場から整理することは、現状の取組のよさや課題と果たす役割といった現状の社会的事象の意味を捉える上で有効か、学習問題①のまとめの記述内容からつかむ。
- (2) 「考える」段階において、社会に見られる課題に対する解決策とその理由を考え、話し合わせることは、社会に見られる課題に対して現状の取組のよさや課題と問題解決に関わる条件を関連付けて望ましい解決策を判断する上で有効か、「マイプラカード」の記述内容からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究実践単元「ごみのしよりと利用」 【検証点1】 「捉える」段階において、取組やそれに対する思いや願いと社会に与える影響とのつながりを整理することは、現状の社会的事象の意味を捉える上で有効か、学習問題①のまとめの記述内容からつかむ。 【検証点2】 「考える」段階において、社会に見られる課題に対する解決策とその理由を考え、話し合わせることは、望ましい解決策を判断する上で有効か、「マイプラカード」の記述内容からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）研究先進校や先進研究者を訪問し、研究を深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・植草学園大学 教授 梅澤真一氏 ・広島大学 教授 草原和博氏 ・宮崎大学 教授 吉村功太郎氏 ・熊本県合志市立西合志東小学校 主幹教諭 村上春樹氏 </div> ○ 第2次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究実践単元「風水害からくらしを守る」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、
12	最終のまとめを作成する。
1	○ 「合理的に判断する力が育つ社会科学習」について、1年間の成果や課題をまとめ、発表する。
2	
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。

参考・引用文献 角田将士『NG分析から導く社会科授業の新公式』明治図書（2022年）